

平成 25 年度 事務事業マネジメントシート [事後評価]

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	10	05	10	0401	萬鉄五郎記念美術館企画展示事業

事業期間	<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返	<input type="checkbox"/> 期間限定	[平成 年度 ~ 平成 年度]
------	---	-------------------------------	-----------------

《事業目的》
 萬鉄五郎の顕彰

《事業開始の背景》
 住民の強い願望と資金提供により、昭和59年5月美術館がオープンし、以後、萬鉄五郎の業績を顕彰するため萬関連の展覧会をはじめ、住民の鑑賞要望に応え岩手ゆかりの芸術家や、日本美術史上重要な役割を果たした芸術家の作品の展覧会を実施してきた。

《事業概要》
 (1) 本館展覧会
 ① 常設展として萬鉄五郎作品の収藏品展(4~7月)、萬以外の作家の寄贈・寄託作品の収藏品展(2~3月)
 ② 特別企画展として「瀧口修造展」(7~9月)、出版社の都合により「池野恋展」を取りやめ「杉本吉武展」(9~11月)を開催。
 各展覧会にあわせて、作品や作家の解説会、講演会、ワークショップ、ギャラリーコンサートを実施。
 (2) 八丁土蔵において岩手ゆかりの現代作家による「コンテンポラリーアート展」を開催(通年)。
 (3) 第33回萬鉄五郎祭関連事業に対する補助
 (4) 先人顕彰共同企画展として「萬鉄五郎自画像展」を開催(12~2月)

市民参画の有無 [対象外]

《事業展開の留意事項》

《成果指標》

項目	単位	区分	24年度(実績)	25年度(見込)	26年度(計画)
① 来館者	人	目標	12,000	11,000	10,000
		実績	9,796	8,443	
② 萬鉄五郎や芸術文化に関心を持った人の割合	%	目標	75	75	75
		実績	78	77	
③ 講演会、ワークショップ等の参加者数	人	目標	120	400	330
		実績	374	393	

分野	担当部(機関)	担当課(機関)	担当係長	(内線)
人づくり	まちづくり部	萬鉄五郎記念美術館	主査 平澤 広	(42-4402)

	25年度	当初(現計)	補正	25年度	26年度
事業費	6,853				
財源内訳	国庫支出金				
	地方債	1,200			
	その他	5,254			
	一般財源	399			

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること

事業費内訳

萬作品等収藏品展	0円
瀧口修造展	5,520,000円 (うち実行委員会負担金5,000千円)
杉本吉武展	1,014,549円
萬鉄五郎祭補助	250,000円
合計	6,852,849円

【別途予算 萬鉄五郎自画像展 3,767,015円(先人顕彰共同企画展)】

萬鉄五郎記念美術館企画展示事業(総括表)

平成 25 年度 事務事業マネジメントシート [事後評価]

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	10	05	10	0401	萬鉄五郎記念美術館企画展示事業

総合計画	政策	地域で支える子育てと教育のまちづくり	施策	4-4	創造性豊かな芸術文化の振興
目的	萬鉄五郎の顕彰				
対象	市民（幼児、児童、生徒、学生、一般）、その他芸術愛好家や観光客				
意図	優れた芸術家の作品鑑賞を通して、市民等の芸術文化への興味や関心を高めるとともに、青少年の情操育成を図る。				

《事業概要》…上記目的を実現するための事業手法を記載すること

(1)本館展覧会
 ①常設展として萬鉄五郎作品の収藏品展(4~7月)、萬以外の作家の寄贈・寄託作品の収藏品展(2~3月)
 ②特別企画展として「瀧口修造展」(7~9月)、出版社の都合により「池野恋展」を取りやめ「杉本吉武展」(9~11月)を開催。
 各展覧会にあわせて、作品や作家の解説会、講演会、ワークショップ、ギャラリーコンサートを実施。
 (2)八丁土蔵において岩手ゆかりの現代作家による「コンテンポラリーアート展」を開催(通年)。
 (3)第33回萬鉄五郎祭関連事業に対する補助
 (4)先人顕彰共同企画展として「萬鉄五郎自画像展」を開催(12~2月)

市民参画の有無 [対象外]

市民協働の形態 共催 実行委員会・協議会 事業協力・協定
 後援・協賛 補助・助成 委託

活動指標（上記「事業概要」に対応）	単位	区分	24年度(実績)	25年度(見込)	26年度(計画)
① 企画展開催日数	日	計画	190	225	322
		実績	207	290	
② 企画展開催数	回	計画	3	3	5
		実績	5	5	
③ 講演会、ワークショップ等の開催	回	計画	7	5	8
		実績	6	10	
成果指標（上記「意図」に対応）	単位	区分	24年度(実績)	25年度(見込)	26年度(計画)
① 来館者	人	目標	12,000	11,000	10,000
		実績	9,796	8,443	
② 萬鉄五郎や芸術文化に関心を持った人の割合	%	目標	75.0	75.0	75.0
		実績	77.6	76.9	
③ 講演会、ワークショップ等の参加者数	人	目標	120	400	330
		実績	374	393	

要因分析

達成度 目標値より高い 概ね目標値どおり 目標値より低い

来館者数が目標をかなり下回り予想外の結果となった。主な要因は、萬鉄五郎自画像展の来館者が低調であったことで、内容としては萬の主な自画像が一堂に展示され見ごたえのあるものであったが、冬期間の開催であったため数字的には低調な結果となったと考えられる。

《環境変化、意見・要望》…環境変化はないか？ 意見や要望が寄せられていないか？

- 市民へのPRが不足ではないか。
- 小中学生でも理解できる解説を望む。

目的妥当性	<p>公共関与の妥当性</p> <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input type="checkbox"/> 妥当でない	芸術文化の振興を図る市の中核的な文化施設の一つとして、また、県内でも数少ない公立美術館として優れた芸術作品の鑑賞機会を確保するものであり妥当である。
有効性	<p>成果の向上余地</p> <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある <input type="checkbox"/> 向上余地がない	<ul style="list-style-type: none"> 入館者数の増加のため、他のイベント等との連携や、PRのあり方を検討する必要がある。 芸術性、専門性的一方、一般市民にも親しまれる企画展の開催に努める。
効率性	<p>事業費・人件費の削減余地</p> <input type="checkbox"/> 事業費の削減余地がある <input type="checkbox"/> 人件費の削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> どちらも削減余地がない	外注できるもの、できないものを区別して実施しており、事業費、人件費とも削減の余地がない。
公平性	<p>受益と負担の適正化余地</p> <input type="checkbox"/> 受益機会の見直し余地がある <input type="checkbox"/> 費用負担の見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適正である	平成21年度に定めた基準により展覧会ごとに入館料を積算・設定しており、負担の適正化を図っている。

《総合評価》…上記評価結果の総括

萬鉄五郎自画像展以外の収藏品展及び瀧口修造展は、目標通りの来館者数となった。特に瀧口修造展は、展覧会の内容に対する来館者や専門家の評価が極めて高いほか、一般的になじみの薄いシュルレアリスムの企画展を開催したことによる公立美術館としての姿勢、存在意義についても評価を高めることができた。